

施策番号	335	施策名	文化財と伝統行事の継承	令和3年度主管課名	生涯学習課
総合計画 体系	政策名	3	創造豊かな教育・文化の里づくり	令和3年度課長名	黒瀬 豊
	関係課名			シート作成者	日下 隆春

1. 施策の対象と意図の指標

① 施策の対象(誰、何が対象か)		③ 対象指標(対象の数・規模)		単位	区分	1年度	2年度	3年度	4年度	7年度	
ア	町内の文化財・伝統文化	→	ア	指定文化財数	件	見込値			166	166	
						実績値	165	165	165		
イ	町民	→	イ	人口	人	見込値			11,970	11,800	
						実績値	12,754	12,625	12,497		
ウ		→	ウ			見込値					
						実績値					
② 施策の意図(対象をどうしたいのか)		④ 成果指標(意図の達成度)		単位	区分	1年度	2年度	3年度	4年度	7年度	
ア	適切に保存・管理し、後世に継承する	→	ア	保存・継承されている文化財の数	件	目標値	166	166	166	166	166
						実績値	165	165	165		
						達成率	99.4%	99.4%	99.4%	99.4%	99.4%
イ	伝統文化に親しんでもらう	→	イ	伝統行事や文化活動に参加している町民の割合	%	目標値	55.0	55.0	49.0	49.5	51.0
						実績値	46.6	49.3	41.3		
						達成率	84.7%	89.6%	84.3%	83.4%	81.0%
ウ		→	ウ	文化等を後世に伝承すべきと思っている町民の割合	%	目標値	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0
						実績値	90.3	92.9	91.7		
						達成率	95.1%	97.8%	96.5%	96.5%	96.5%
エ		→	エ			目標値					
						実績値					
						達成率					
⑤ 成果指標 設定の考え方	歴史的財産を大切に保存・継承し、同時にそれが過去から現在、未来へとつなぐ重要な町の財産と理解することができる町民を増やすことが大切であり、日頃から伝統行事や伝統文化に親しんでいる町民の割合と文化財を大切にしたいと考えている町民の割合を成果指標とした。				⑥ 成果指標の 把握方法と 算定式等	町民アンケート					

2. 施策の役割分担

	① 住民の役割 (自助・共助・協働でやるべきこと)	② 行政の役割 (町・都道府県・国がやるべきこと)
施策成果向上に向けた 住民と行政との 役割分担	<ul style="list-style-type: none"> 町民は、文化財、伝統芸能や伝統行事に関心をもち、地域の行事に積極的に参加するよう努める。 地域は、地域の伝統芸能や伝統行事の保存継承に取り組む。 町民・地域・団体は、文化財の保護・保全に協力する。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化財、伝統芸能や伝統行事に関心を育てよう、意欲高揚を図る。 地域文化の継承のため、地域が行う保存活動への支援を行う。 文化財の適正な保存を図るため、所有者・管理者が行う保存活動に対して支援を行う。

3. 評価結果

1. 施策の成果水準とその背景・要因	
3年度 の 評価結果	① 施策の目標達成度(目標値を達成したか、未達成か? その要因は?)
	<p>目標値をやや下回る要因としては、コロナ禍のため地域の伝統行事や文化財の草刈りなどの保護活動、地域の歴史を学ぶ公民館講座や講演会などが中止となったため、こうした活動に参加できなかったことが最も大きいと思われる。また、過疎・高齢化によりこうした活動に参加できる人が少なくなったことも一つの要因として考えられる。</p>
	<input type="checkbox"/> 目標値を上回る <input type="checkbox"/> 目標値どおり <input checked="" type="checkbox"/> 目標値を下回る
	② 成果指標の時系列比較(成果は向上したか? 低下したか? 要因は?)
<p>指定文化財の件数は令和3年度末現在で、国・県・町指定を合わせて165件である。日頃から地域文化に触れている町民の割合は決して高くはないが、文化財や伝統文化を大切にしなければならないという町民の意識は高い。この背景としては、公民館講座などでのふるさと史の講座や、広報巻末の連載記事などの影響が考えられる。実績値は例年と比較してもさほど変化はないが、町の歴史や文化財に関する問い合わせや所蔵する資料の寄贈の依頼なども年々増加しており、住民の関心は向上しつつあることが感じられる。</p>	
<input type="checkbox"/> 向上した <input type="checkbox"/> ほとんど変わらない <input checked="" type="checkbox"/> 低下した	
③ 他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか、低いのか、その背景・要因は?)	
<p>行政が指定した文化財数は近隣市町村との比較ではかなり多く、県下でも上位に入る。合併時に4町村の指定を継続したこと、町域面積が広い文化財の分布範囲が多岐にわたっており、他の地域に比べて指定に見合う文化財が豊かといえる。その反面、文化財を観光や地域づくりの素材として活用していく意識は近隣自治体と比較すれば低く、これが文化財保護意識は高くても、伝統行事や保護活動の参加率の向上につながっていない原因の一つであると思われる。</p>	
<input type="checkbox"/> 高い水準 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ同水準 <input type="checkbox"/> 低い水準	
2. 施策を取り巻く環境変化(対象の変化、国県の動向、法改正等)と住民からの意見・要望など	
<p>コロナ禍のため、地域の伝統行事が相次いで中止となり、これをきっかけに行事の衰退が懸念されるため、町では令和3年度に「鏡野町無形文化財保存継承事業費補助金交付要綱」を定めた。他の指定文化財については、所有者の高齢化や転出などに伴い、維持管理が困難なものも出始めており、これらを今後地域や行政がどのように保護していくかが課題となってくるであろう。オオサンショウウオの保護活動については、地域住民にも徐々に理解・協力を得られており、成果が向上しつつあるが、国・県の指導の下で今後の方向性を設定していく必要がある。</p>	
3. 施策の振り返りと総括(3年度の事務事業や取組の成果は? うまくいかなかった取組・問題点と原因は?)	
① 施策の成果向上につながった主な事務事業	無形文化財補助金・文化財保護管理費・文化財保護臨時管理費・特別天然記念物緊急調査事業
② 施策の成果向上のため改善を要する主な事務事業	郷土博物館経常管理費
③ 施策全体の振り返りと総括	
<p>オオサンショウウオ捕獲調査事業は、地元団体の協力もあり、少しずつ地域への理解が深まりつつある。博物館に収蔵した埋蔵文化財整理業務や古文書などの資料を整理、目録作成等の作業は少しずつは行えるようになったが、寄贈資料も増えつつあり、これらの収蔵場所や記録方法など検討すべき課題は多い。また、コロナ禍のため、地域の伝統行事や博物館講座・講演会等が中止になり、普及啓発の場が減少した。</p>	
4. 施策の今後の課題と改革改善の方向(今後、新たに取り組むべきこと、さらに力をいれる必要があることは?)	
① 今後施策の成果向上につながる主な事務事業	無形文化財補助金・文化財保護管理費・特別天然記念物緊急調査事業・郷土博物館経常管理費
② 施策全体の今後の課題と改革改善の方向	
<p>伝統行事開催の広報や、公民館・博物館において歴史や文化財に関する講座や展示を積極的に実施することで、住民の関心や保護意識の向上に努める。そのための調査研究も行っていく必要がある。文化財の維持管理は地域が主導して行っていくことが望ましいが、過疎・高齢化が進む中で、行政がどの程度まで関わっていくのが今後の大きな課題となる。オオサンショウウオの交雑問題については、県内外に拡大しつつあり、鏡野町のみでの判断で事業実施の可否ができる状況ではなくってきている。国・県・同じ問題を抱える自治体で今後の方向性を検討していく必要がある。博物館等の資料については、未整理資料の整理を行うこと、保管方法について検討を行うことが急務である。</p>	